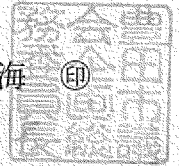


平成24年7月27日

豊田市議会議長 梅村 憲夫 様

企画総務委員会

委員長 三江 弘海 印



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成24年7月17日(火)～19日(木)
- 2 派遣先 17日(火)…神奈川県川崎市/資産マネジメントプランの取組  
及び内容 18日(水)…千葉県流山市/シティーセールスの取組  
19日(木)…東京都三鷹市/ICT事業継続計画
- 3 派遣委員 委員長 三江 弘海  
副委員長 清水 郁夫  
委 員 河合 芳弘 岡田 耕一 杉浦 弘高  
都築 繁雄 鎌田ひとみ 桜井 秀樹  
原田 勇司
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 野口啓一、宮川貴行

## 視察報告書【1】

委員会名	企画総務委員会	委員名	三江弘海
視察日時	平成24年7月17日(火)午後1時00分～午後2時30分		
視察先・概要	神奈川県川崎市 人口：約1,426,000人 面積：142.70km <sup>2</sup> 特記事項：政令市		
視察内容	資産マネジメントプランの取組		
選定理由	川崎市は、私有地や公共施設などの市の資産を都市経営資源として有効に活用するため、「資産マネジメントプラン」を策定し、資産マネジメントのシステムを構築するとともに、広告掲載や自動販売機設置場所貸付など、市有財産の一層の有効活用を推進している。今後の少子高齢化や公共施設の老朽化などの課題に対する、本市の都市経営の参考とするため。		
豊田市の現状と課題	<p>公共施設のあり方や維持管理の最適化を諮るため、公共施設の最適化プロジェクトチームを設置し、以下の視点に基づき検討を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存公共施設の利活用策、延命化</li> <li>・ 公共施設の配置規模・整備基準</li> <li>・ 財政支出の平準化</li> </ul>		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革とFM（ファシリティ・マネジメント） <ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設の再編による資産保有の最適化（コンパクト化）</li> <li>② 予防保全型の維持補修による長寿命化</li> <li>③ 多様な手法による私有財産有効活用</li> </ul> </li> <li>・ 川崎市のFM基本戦略</li> <li>・ 川崎版PRE（公的不動産）戦略の手法などの説明を受ける。</li> </ul>		
評価と その理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川崎市においては、財政危機を契機にファシリティ・マネジメントに取り組んでいたが、本市においても、今後の人口減少や施設の老朽化に対する維持管理を考えても、喫緊の課題である。川崎市の資産マネジメントプランに学んで、ファシリティ・マネジメントを取り入れたマネジメントプランの作成は必要である。</li> </ul>		
本市に反映 できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資産運用に関する専門部署があるところがすばらしい。中核市である本市でも、専門部署を設置したほうがよい。</li> <li>・ 資産の価値、資産を維持するための経費、資産の老朽度・安全面からの品質などを重要評価指標とし、資産状況を多角的に分析、評価を行っている点は本市にも参考になる。</li> <li>・ ネーミングライツに関して、川崎市でも検討されていたが、現在の経済情勢などからしても難しさが残ると感じた。本市での実現可能性に関して難しいことを再認識した。しかし、民間広告の導入も含め、市の保有する資産をどんどん有効活用する姿勢は大切であり、使える手法は、執行部に提言していくべきである。</li> </ul>		
その他 (意見・課題 など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革の一環で、川崎市においても職員の削減や派遣職員の引き上げなどを行っていたが、職員の士気ややる気の低下を招かないよう配慮する必要があると感じた。</li> </ul>		

## 視察報告書【2】

委員会名	企画総務委員会	委員名	三江弘海
視察日時	平成24年7月18日(水) 午前10時30分～正午		
視察先・概要	千葉県流山市 人口：約164,000人 面積：35.28km <sup>2</sup>		
視察内容	シティセールスの取組		
選定理由	平成16年4月に全国初のマーケティング課を設置し、民間経験者の活用、共働き子育て世帯をターゲットに絞ったマーケティング手法の導入などいままでの行政にはなかった新たな発想のプロモーション活動を行い、人口増に貢献している。本市がキーワードとして取り組む「見せる化」の取組の参考になると考えるため。		
豊田市の現状と課題	今年度の重点取組として、(仮)第2次まちづくり基本条例戦略プラン策定の中で、全庁的な「見せる化」についての方針を取りまとめ、戦略的な広報活動を展開する予定。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マーケティング課の業務概要</li> <li>・ マーケティング課設置までの経緯</li> <li>・ シティセールスの事例紹介と現地視察 ボランティアガイドによる本町の町並み散策、流山おおたかの森駅のデジタルサイネージ、駅前送迎保育ステーション等を視察</li> <li>・ 効果と今後の課題 などの説明を受ける。</li> </ul>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験豊富な民間人を採用し、民間活力を積極的に利用している点、行政(市長)の強いリーダーシップを感じた点、ターゲットを共働き子育て世代(DEWKS)に絞り込んだ戦略である点が評価できる。</li> <li>・ ターゲットを絞った結果、人口増加もしており、駅前送迎保育ステーションという新しい事業を展開し、若い世代に受け入れられていると感じた。また、ツイッターやフェイスブックといったSNSを活用した情報交流も非常に参考になった。本市も若い世代の方々が行政、地域に関心が低いという部分があるが、こういったものを活かした見せる化、市の情報発信も重要だと感じた。</li> </ul>		
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流山おおたかの森駅では、DEWKS世代をターゲットにし、インフラも含め高層住宅など次々と整備が進んでおり、他方、流山駅は歴史的建造物などを活かしたレストランや観光など、新旧のコンセプトに基づいた施策が展開されていた。本市においても、旧合併町村の地区毎でターゲットやコンセプトを決めて事業展開をしていくことが必要であると感じた。</li> </ul>		
その他(意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口増により市の活性化を図っていくということは大変良いことではあるが、その裏にある将来の高齢化、都市の過疎化などの問題点をしっかり把握しているのか疑問に感じた。そういった問題点・課題に対しても目をつぶらずに、しっかりやっていけば非常に良い成果が現れると思う。</li> </ul>		

### 視察報告書【3】

委員会名	企画総務委員会	委員名	三江弘海
視察日時	平成24年7月19日(木) 午前10時00分～午前11時30分		
視察先・概要	東京都三鷹市 人口：約186,000人 面積：16.50km <sup>2</sup>		
視察内容	ICT事業継続計画		
選定理由	三鷹市は、震災、風水害など災害時だけでなく、職員の操作ミス、不正アクセス、感染症の世界的拡大など非災害時においても、情報システムの機能をできる限り確保することで、市の事業継続を目的とし「ICT事業継続計画」として策定している。今後、大規模災害や一層のIT化が予想される中、非災害時も含めた危機管理の参考になると考えるため。		
豊田市の現状と課題	総合企画部の危機管理担当を中心とした組織体制で、災害対策や健康危機管理(新型インフルエンザなど)、家畜伝染など各個別の危機管理の要綱などに基づき、行動計画を策定しているが、情報システムに特化した危機管理マニュアルは無い状況。現在、社会部を中心に大規模災害を想定した、BCP(業務継続計画)を策定中。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT事業継続計画の策定の経緯</li> <li>・ 計画の目的と概要</li> <li>・ 計画策定後の運用と課題</li> </ul> などの説明を受ける。		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三鷹市のICT事業継続計画は、震災などの大規模災害時だけでなく、ウイルス感染や事務ミス、機器のトラブルなど通常でも起こりうる事象も想定にいて、ICT事業継続計画が策定されている点が参考になった。</li> <li>・ 三鷹市の資料の中で記載があったが「職員は市民のニーズの把握や企画により注力すべきであるから、システム構築や運用に関してはアウトソーシングが基本」とし、アウトソーシングを活用している部分が先進的であり、「システムを構築することが目的ではなく、市民にとってより便利で豊かな暮らしをサポートする行政サービスを届けることが目的」という市民目線がすごく確立されていると感じた。</li> </ul>		
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画策定時には相当量の時間がかかると予想されるため、外部のコンサルタント会社などを活用しながら、部署間の連携を補完していく取組も必要かと感じた。また、業務の優先順位付けの際には、本市の特徴でもある広域性を加味しながら取り組む必要性を感じた。</li> </ul>		
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全庁的に電算の関係がわかる職員を配置し、その職員にもICT事業継続計画の取組をしっかりと習得させ、有事に行動できる職員を確保することも大切だと感じた。</li> <li>・ 組織の活性化のためには、職員の異動も重要ではあるが、専門的知識を必要とする職場では、知識習得までに時間をかけなければならないこともあるため、異動の際にはその部分での配慮も必要ではないかと感じた。</li> </ul>		